

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4541925号  
(P4541925)

(45) 発行日 平成22年9月8日(2010.9.8)

(24) 登録日 平成22年7月2日(2010.7.2)

(51) Int.Cl.

F 1

F 2 4 F 13/02 (2006.01)

F 2 4 F 13/02

F

F 1 6 M 13/02 (2006.01)

F 1 6 M 13/02

E

請求項の数 3 (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2005-50624 (P2005-50624)  
 (22) 出願日 平成17年2月25日(2005.2.25)  
 (65) 公開番号 特開2006-234300 (P2006-234300A)  
 (43) 公開日 平成18年9月7日(2006.9.7)  
 審査請求日 平成19年3月2日(2007.3.2)

(73) 特許権者 000005049  
 シャープ株式会社  
 大阪府大阪市阿倍野区長池町2番22号  
 (74) 代理人 100077780  
 弁理士 大島 泰甫  
 (74) 代理人 100106024  
 弁理士 稗苗 秀三  
 (74) 代理人 100106873  
 弁理士 後藤 誠司  
 (72) 発明者 井谷 明広  
 大阪府大阪市阿倍野区長池町2番22号  
 シャープ株式会社内

審査官 後藤 健志

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 取付パネル及び空気調和機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

被空調室の壁開口に固定部材で固定され、空気調和機のダクトを取付けるための取付パネルであって、前記ダクトを取付けるためのダクト取付口を有する固定パネルと、壁開口の大きさにあわせて前記固定パネルから前記延長パネルを突出できるように、前記固定パネルに沿ってスライド可能に設けられた延長パネルとからなり、

前記延長パネルは、前記固定パネルにスライド可能に設けられた第1延長パネルと、該第1延長パネルにスライド可能に設けられた第2延長パネルとを備え、前記第2延長パネルは、前記固定パネルと断面同一形状とされたことを特徴とする取付パネル。

【請求項 2】

前記固定パネルの固定部と、該固定部に沿って摺動する前記延長パネルの摺動部と、のうちいずれか一方に第1孔が形成され、他方に複数の第2孔がスライド方向に並んで形成され、前記第1孔のスライド方向の孔の長さが、隣接する前記第2孔の間隔よりも長く設定されていることを特徴とする請求項1に記載の取付パネル。

【請求項 3】

被空調室の壁開口に固定部材で固定された請求項1又は2に記載の取付パネルに、ダクトが取付けられたことを特徴とする空気調和機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

10

20

本発明は、空気調和機のダクトを取付けるために、被空調室の壁開口に設けられる取付パネル及び空気調和機に関するものである。

【背景技術】

【0002】

空気調和機のダクトを被空調室の壁開口に開口又は挿通させるために、壁開口に固定パネルが設けられる。例えば、特許文献1には、空気調和機本体を窓枠に取付けるための据付装置が記載されている。特許文献1記載の据付装置は、取付枠と、内面に窓パネルが嵌着されたスライド枠とからなり、各々が上下スライド可能に嵌合連結されている。スライド枠の出し入れを調節することにより、窓枠の高さに応じて上下寸法調節可能となる。スライド枠の出し入れを調節して窓枠に固定した後、取付枠の枠開口に空気調和機本体が取り付けられる。

10

【0003】

【特許文献1】実開昭59-76919号

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、取付枠からスライド枠の全体を引き出さない場合には、スライド枠の内面に嵌着された窓パネルの下方が、本体取付枠内の一部を覆ってしまい、取付枠に空気調和機本体を取付けるのに邪魔になってしまう。そのため、取付枠内に残った余分な窓パネルを切断しなければならず、手間がかかってしまう。

20

【0005】

そこで、本発明は、上記に鑑み、パネルを切断する必要が無く、簡単に壁開口に取り付けることのできる取付パネルを提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記目的を達成するため、本発明は、被空調室の壁開口に固定部材で固定され、空気調和機のダクトを取付けるための取付パネルであって、ダクトを取り付けるためのダクト取付口を有する固定パネルと、壁開口の大きさにあわせて固定パネルから延長パネルを突出できるように、固定パネルに沿ってスライド可能に設けられた延長パネルとからなることを特徴とする取付パネルである。

30

【0007】

壁開口は、被空調室を囲む壁や天井等に形成された開口であって、空気調和機のダクトを室内外に挿通させたり、ダクトの一端を室内又は室外に開口させることができればよく、窓等の既存の開口を利用してもよい。壁開口の大きさは様々であるが、本発明の取付パネルは、固定パネルから延長パネルを出し入れ自在に突出可能であるので、延長パネルの出し入れ方向において壁開口の大きさに合わせることができる。

【0009】

壁開口への取付パネルの固定は、ビス、ネジ、釘等の固定部材で固定されるが、これらに限定されるものではない。固定部材で直接、取付パネルに孔を開けながら壁開口の壁面に固定してもよいが、それでは開ける際に強い力が必要となるため、予め固定パネルに固定部材挿通用の孔を形成しておくのが好ましい。

40

【0010】

例えば、固定パネルの固定部と、固定部に沿って摺動する延長パネルの摺動部と、のうちいずれか一方に第1孔を形成し、他方に複数の第2孔をスライド方向に並んで形成し、第1孔のスライド方向の孔の長さを、隣接する第2孔の間隔よりも長く設定する。固定パネルの固定部とは、固定部材を用いて壁開口に固定される部分のことである。また、延長パネルの摺動部とは、固定部材の固定部と対向して摺動する部分のことであるが、摺動部の全体が固定部と接する必要はない。この固定部又は摺動部のいずれか一方に設けられた第1孔の孔の長さが、他方に設けられた第2孔の間隔よりも長いので、第1孔と、少なくとも1つの第2孔とが同一の位置になる。すなわち、延長パネルを固定パネルからどの程

50

度突出させても、必ず第1孔と少なくとも1つの第2孔とが同一の位置になる。したがって、第1孔と第2孔とに、固定部材を挿入して壁穴に固定する場合に、固定パネルと延長パネルとの位置が限定されないですむので、無段階で延長パネルの出し入れを調節することができる。そのため、延長パネルを切断する必要がなくなる。

#### 【0011】

延長パネルは、複数設けられる。固定パネルにスライド可能に第1延長パネルを設け、さらに、第1延長パネルにスライド可能に第2延長パネルを設けるように、延長パネルを順々に連結していてもよいし、または、固定パネルにスライド可能に複数の延長パネルを設け、各延長パネルが互いにぶつからないように固定パネルに対しずらして配置するようにしてもよい。第1延長パネルにスライド可能に第2延長パネルを、第2延長パネルにスライド可能に第3延長パネルを、第3延長パネルにスライド可能に第4延長パネルをと、延長パネルを順々に連結していく場合は、固定パネルと第2延長パネルと第4延長パネルとを断面同一形状とし、第1延長パネルと第3延長パネルとを断面同一形状とすれば、それぞれ同一の金型を使用することができる。全体として2つの金型があればすむので好ましい。

#### 【発明の効果】

#### 【0012】

本発明によると、固定パネルから延長パネルを出し入れ自在に突出可能であるので、延長パネルの出し入れを調節することにより、壁開口の大きさに合わせることができる。また、延長パネルは、固定パネルにスライド可能に設けられた第1延長パネルと、第1延長パネルにスライド可能に設けられた第2延長パネルとを備え、第2延長パネルは固定パネルと断面同一形状とされているので、それぞれ同一の金型を使用することができる。

#### 【発明を実施するための最良の形態】

#### 【0013】

以下、本発明の実施形態を図面に基づいて説明する。図1は本発明の取付パネルのカバー開放状態を示す(a)正面図、(b)A-A断面図、図2は本発明の取付パネルのカバー閉成状態を示す(a)正面図、(b)B-B断面図、図3は本発明の取付パネルの側面図、図4は同じく固定パネルの(a)C-C断面図、(b)正面図、(c)D-D断面図、(d)側面図、図5は同じく第1延長パネルの(a)E-E断面図、(b)正面図、(c)F-F断面図、(d)側面図、図6は同じく第2延長パネルの(a)G-G断面図、(b)正面図、(c)H-H断面図、(d)側面図、図7は同じくカバーパネルの(a)I-I断面図、(b)正面図、(c)J-J断面図、(d)側面図、図8は空気調和機のダクトの取付状態を示す図である。

#### 【0014】

本取付パネル1は、図1～図3に示すように、固定パネル2と、固定パネル2の内面に沿ってスライド可能に設けられた延長パネル3及びカバーパネル4とからなり、被空調室の壁開口5を覆うように配される。カバーパネル4と延長パネル3とは、固定パネル2に対して内外にずらして配置され、スライド時に互いにぶつかることがない。

#### 【0015】

取付パネル1の壁開口5への固定は、ビス、ネジ、釘等の固定部材6で固定されるが、これらに限定されるものではない。固定部材6で直接、取付パネル1に孔を開けながら壁開口5の壁面に固定してもよいが、それでは開ける際に強い力が必要となるため、予め固定パネル2に固定部材6挿通用の孔が形成される。

#### 【0016】

固定パネル2は、図3及び図4に示すように、壁開口5を覆う固定パネル背板7と、固定パネル背板7の上下端から室内側へ突出するように延設され、壁開口5の上下壁面に固定される固定部8と、上下の固定部8の内面に固定パネル背板7と並行に設けられた板状の第1レール9と、上下の固定部8の内端が幅狭となるようにクランク状に折曲した第2レール10とから構成され、これらは一体押出成型により形成される。第1レール9と第2レール10とは、固定パネル2に対して内外方向にずらした位置に形成される。

## 【 0 0 1 7 】

固定パネル背板 7 には、開口が形成され、ダクト a を取付けるためのダクト取付口 1 1 となる。ダクト取付口 1 1 の形状は、長方形に形成されるが、これに限定されるものではなく、取付けられるダクト a の形状によって変更すればよい。また、ダクト取付口 1 1 は、固定パネル背板 7 の一方に片寄って形成され、ダクト取付口 1 1 の一端から固定パネル背板 7 の一端までが、延長パネル 3 及びカバーパネル 4 を収容する延長パネル収容部 1 2 とされる。延長パネル収容部 1 2 側の一端から、延長パネル 3 を出し入れすることになる。

## 【 0 0 1 8 】

両方の固定部 8 には、固定部材 6 を挿通するための第 1 孔 1 3 が形成される。第 1 孔 1 3 は、延長パネル収容部 1 2 側に設けられ、スライド方向に長い長孔状に形成される。第 1 孔 1 3 の数は少なくとも 1 個あればよいが、複数形成してもよい。なお、延長パネル 3 を最大に飛び出させたときに対応するために、延長パネル 3 を出し入れする側の端に形成する。

## 【 0 0 1 9 】

延長パネル 3 は、固定パネル 2 にスライド自在に設けられた第 1 延長パネル 3 a と、第 1 延長パネル 3 a にスライド自在に設けられた第 2 延長パネル 3 b とからなる。

## 【 0 0 2 0 】

第 1 延長パネル 3 a は、図 5 に示すように、2 本の脚 1 4 a で固定パネル 2 の固定部 8 内面を摺動する断面コ字状の摺動部 1 4 と、上下の摺動部 1 4 間を連結する延長パネル背板 1 5 とから構成され、第 1 延長パネル 3 a は全体として断面コ字状に、一体押出成型により形成される。第 1 延長パネル 3 a のスライド方向の長さは、固定パネル 2 の一端からダクト取付口 1 1 の一端までの長さ、すなわち、延長パネル収容部 1 2 の長さと同じ、またはそれよりも短く設定される。延長パネル収容部 1 2 に、第 1 延長パネル 3 a の全体をすっぽりと重ねることができる。また、第 1 延長パネル 3 a のスライド方向と垂直方向の長さは、固定パネル 2 の内径とほぼ同一とされ、固定パネル 2 の内面をスライド可能とされる。

## 【 0 0 2 1 】

摺動部 1 4 は、2 本の脚 1 4 a と、脚 1 4 a を連結する連結体 1 4 b とからなり、上下の摺動部 1 4 の外側の脚 1 4 a が、固定パネル 2 の背板 7 と第 1 レール 9 との間に挿入されることにより、第 1 延長パネル 3 a を固定パネル 2 内面に沿ってスライド可能となる。壁開口 5 の大きさにあわせて固定パネル 2 の側端から 第 1 延長パネル 3 a を突出できる。また、上下の摺動部 1 4 の連結体 1 4 b には、取付時に固定部材 6 を挿通するための複数の第 2 孔 1 6 がスライド方向に並んで形成される。第 2 孔 1 6 の形状は、丸孔に形成されるが、長孔であってもよい。

## 【 0 0 2 2 】

上記第 1 孔 1 3 の長孔の長さと、第 2 孔 1 6 の数とはそれぞれ限定されるものではないが、両者の関係が、「第 1 孔 1 3 のスライド方向の孔の長さ ( L 1 ) > 隣接する第 2 孔 1 6 の間隔 ( L 2 ) 」であればよい。この関係であれば、第 1 延長パネル 3 a を固定パネル 2 からどの程度突出させても、必ず第 1 孔 1 3 と少なくとも 1 つの第 2 孔 1 6 とが同一の位置になる。したがって、第 1 孔 1 3 と第 2 孔 1 6 とに、固定部材 6 を挿入して壁開口 5 に固定する場合に、固定パネル 2 と第 1 延長パネル 3 a との位置が限定されないので、無段階で第 1 延長パネル 3 a の出し入れを調節することができる。

## 【 0 0 2 3 】

なお、上記実施形態においては、固定パネル 2 の固定部 8 に第 1 孔 1 3 を、カバーパネル 4 及び第 1 延長パネル 3 a の摺動部 1 4 に第 2 孔 1 6 を形成したが、その逆、すなわち固定パネル 2 の固定部 8 に第 2 孔 1 6 を、第 1 延長パネル 3 a の摺動部 1 4 に第 1 孔 1 3 を形成してもよい。

## 【 0 0 2 4 】

第 2 延長パネル 3 b は、固定パネル 2 と断面同一形状とされ、図 6 に示されるような形

10

20

30

40

50

状に形成される。固定パネル 2 と同一の金型を使用することができる。第 2 延長パネル 3 b には、固定パネル 2 の固定部 8 にあたる部分に、固定パネル 2 の第 1 孔 1 3 と同じ長孔状の孔 3 c が形成される。固定パネル 2 と第 1 延長パネル 3 a とを嵌合させてスライド可能とするのと同じように、第 1 延長パネル 3 a と第 2 延長パネル 3 b とを嵌合させ、第 1 延長パネル 3 a と第 2 延長パネル 3 b とを互いにスライド可能とする。第 2 延長パネル 3 b の孔 3 c と、第 1 延長パネル 3 a の第 2 孔とが重なり合った部分に固定部材 6 を挿通し、壁開口 5 の壁面に固定する。なお、固定パネル 2 に第 2 孔 1 6 を設けた場合は、第 2 延長パネル 3 b に設ける孔 3 c は、第 1 孔 1 3 のような長孔ではなく、第 2 孔 1 6 と同じ形状の孔にする。

【 0 0 2 5 】

10

カバーパネル 4 は、第 1 延長パネル 3 a と同一の金型を用いて形成される。すなわち、カバーパネル 4 は、固定パネル 2 の第 2 レール 1 0 を摺動する断面コ字状の摺動部 1 7 と、上下の摺動部 1 7 間を連結するカバーパネル背板 1 8 とから構成され、カバーパネル 4 は全体として断面 字状に形成される。カバーパネル 4 のスライド方向の長さは、延長パネル収容部 1 2 の長さと同じ、またはそれよりも短く設定される。延長パネル収容部 1 2 に、第 1 延長パネル 3 a の全体をすっぽりと重ねることができる。また、固定パネル 2 のスライド方向と垂直方向の長さは、固定パネル 2 の内径とほぼ同一とされ、固定パネル 2 の内面をスライド可能とされる。

【 0 0 2 6 】

摺動部 1 7 は、2 本の脚 1 7 a と、脚 1 7 a を連結する連結体 1 7 b とからなり、上下の摺動部 1 7 の外側の脚 1 7 a と内側の脚 1 7 a とで、固定パネル 2 の第 2 レール 1 0 のクランク部分を挟み込むことにより、カバーパネル 4 を固定パネル 2 内面に沿ってスライド可能となる。固定パネル 2 のダクト取付口 1 1 を覆いたい場合には、カバーパネル 4 をスライドさせれば、ダクト取付口 1 1 を覆うことができる。

20

【 0 0 2 7 】

以上の構成の取付パネル 1 の取付方法を説明する。まず、取付パネル 1 を組み立てる。すなわち、固定パネル 2 の固定パネル背板 7 と第 1 レール 9 との間に、第 1 延長パネル 3 a の摺動部 1 4 の外側の脚 1 4 a を挿入するようにして、第 1 延長パネル 3 a を固定パネル 2 に嵌合させる。第 1 延長パネル 3 a は、固定パネル 2 の内面をスライド可能となる。同様に、第 1 延長パネル 3 a と第 2 延長パネル 3 b とをスライド可能に嵌合させる。

30

【 0 0 2 8 】

そして、カバーパネル 4 の上下の摺動部 1 7 の外側の脚 1 7 a と内側の脚 1 7 a とで、固定パネル 2 の第 2 レール 1 0 のクランク部分を挟み込むことにより、カバーパネル 4 を、固定パネル 3 よりも内側で、固定パネル 2 内面に沿ってスライド可能となる。

【 0 0 2 9 】

次に、このように組み立てられた取付パネル 1 を、壁開口である窓枠 5 に載置する。窓は、上げ下げ窓、引き違い窓のいずれでもよい。この際、壁開口 5 の大きさが固定パネル 2 の大きさよりも大きい場合には、固定パネル 2 から 第 1 延長パネル 3 a をスライドさせて飛び出させて、壁開口 5 の大きさに合わせる。また、固定パネル 2 の大きさと壁開口 5 の大きさが同一である場合には、第 1 延長パネル 3 a を固定パネル 2 の延長パネル収容部 1 2 に重ねたままにしておく。このときは第 2 延長パネル 3 b は使用しない。

40

そして、第 1 延長パネル 3 a の摺動部 1 4 の第 2 孔 1 6 と、固定パネル 2 の固定部 8 の第 1 孔 1 3 とが重なっているところと、第 1 延長パネル 3 a の第 2 孔 1 6 と第 2 延長パネル 3 b の孔 3 c とが重なっているところに、ビスを挿入し、壁開口 5 の壁面に固定する。カバーパネル 4 は固定されていないので、スライド自在である。

【 0 0 3 0 】

そして、図 8 に示すように、このようにして壁開口 5 に取り付けられた取付パネル 1 のダクト取付口 1 1 に、一体型空気調和機 1 9 のダクト a の開口端を固定する。一体型空気調和機 1 9 は、キャビネット 2 0 に、圧縮機 2 1、凝縮器 2 2、蒸発器 2 3 及び絞り機構（図示せず）が内装され、これらによって冷凍サイクルが形成される。そして、空気調和

50

機 19 は、冷風を発生させて、室内を冷房する冷房運転を行う。そのため、空気調和機 19 は、蒸発器 23 に対する送風ファン 24 と、凝縮器 22 に対する排気ファン 25 と、排気用のダクト a と、冷房運転によって発生したドレン水进行处理するためのポンプ 26 とを備えている。

【0031】

ダクト a の一端は、空気調和機 19 の排気口 27 に連結され、ダクト a の他端は、壁開口 5 に取り付けられた取付パネル 1 に着脱可能に取り付けられる。すなわち、取付パネル 1 のダクト取付口 11 にダクトホルダ 28 が嵌め込まれ、ダクトホルダ 28 に、ダクト a の他端に設けられたダクトコネクタ 29 が着脱可能に装着される。ダクトコネクタ 29 がダクトホルダ 28 に装着されることにより、ダクトホルダ 28 は取付パネル 1 から抜けな  
10  
いように取り付けられる。ダクトホルダ 28 の室外側には、雨が入り込まないように、雨除け 30 が取り付けられている。したがって、ダクトコネクタ 29 をダクトホルダ 28 から外すことにより、ダクト a を取付パネル 1 から取り外すことができる。さらにダクトホルダ 28 も取付パネル 1 から取り外すことができる。

【0032】

なお、空気調和機は一体型のものに限定されるものではなく、室内機と室外機とからなる空気調和機であってもよく、ダクト a をダクト取付口 11 に挿通させる形態であってもよい。

【0033】

以上のように、本取付パネル 1 は、第 1 延長パネル 3 a を固定パネル 2 から飛び出し自在にスライド可能であるので、壁開口 5 の大きさに合わせることができる。また、第 1 延長パネル 3 a の長さが固定パネル 2 の延長パネル収容部 12 の長さと同じ、またはそれよりも短く設定されているので、第 1 延長パネル 3 a を固定パネル 2 から突出させる必要の  
20  
無い場合には、第 1 延長パネル 3 a の全体を延長パネル収容部 12 に重ねることができる。したがって、第 1 延長パネル 3 a が固定パネル 2 のダクト取付口 11 を覆うことがなく、第 1 延長パネル 3 a のどの部分も切断する必要がない。壁開口 5 への取付作業が容易である。

【0034】

固定部 8 に設けられた第 1 孔 13 の孔の長さが、摺動部 14 に設けられた第 2 孔 16 の間隔よりも長いので、第 1 孔 13 と少なくとも 1 つの第 2 孔 16 とが同一の位置になる。  
30  
したがって、第 1 延長パネル 3 a を固定パネル 2 からどの程度突出させても、必ず第 1 孔 13 と少なくとも 1 つの第 2 孔 16 とが同一の位置になるので、固定パネル 2 と 第 1 延長パネル 3 a との位置が限定されない。そのため、無段階で 第 1 延長パネル 3 a の出し入れを調節することができ、第 1 延長パネル 3 a を切断する必要がなくなる。

【0035】

さらにまた、本取付パネル 1 は、カバーパネル 4 を有するので、ダクト取付口 11 にダクトを取り付ける必要の無い場合には、カバーパネル 4 をスライド移動させて、ダクト取付口 11 を簡単に覆うことができる。したがって、ダクト取付口 11 が開口したままとならず、室外からの風雨の侵入を防止できる。また、カバーパネル 4 が固定パネル 2 に一体的に設けられているので、カバーパネル 4 が紛失してしまうこともない。  
40

【0036】

また、カバーパネル 4 のスライド方向の長さが、固定パネル 2 の延長パネル収容部 12 の長さと同じ、またはそれよりも短く設定されているので、ダクト取付口 11 を塞ぐ必要の無い場合には、カバーパネル 4 の全体をダクト取付口 11 の形成されていない延長パネル収容部 12 に重ねることができる。したがって、カバーパネル 4 がダクト取付口 11 を覆ってしまうことがない。カバーパネル 4 が不要なときはしまっておくことができ、必要なときにスライドさせてすぐに使用することができる。また、カバーパネル 4 と 第 1 延長パネル 3 a とは、固定パネル 2 に対して内外にずれて配置されているので、スライドさせても互いにぶつかることがない。

【0037】

10

20

30

40

50

なお、本発明は上記実施形態に限定されるものではなく、本発明の範囲内で上記実施形態に多くの修正及び変更を加え得ることは勿論である。例えば、上記実施形態においては、延長パネル 3 を第 1 延長パネル 3 a と第 2 延長パネル 3 b とから構成したが、第 1 延長パネル 3 a のみであってもよいし、または、第 3 延長パネル、第 4 延長パネル、第 5 延長パネルとさらに順々に連結していてもよい。この場合、第 2 延長パネル及び第 4 延長パネルを固定パネル 2 と同一金型で形成し、第 3 延長パネル及び第 5 延長パネルを第 1 延長パネル 3 a と同一金型とすればよい。全体として 2 つの金型があればすむ。

#### 【 0 0 3 8 】

また、上記実施形態では、複数の延長パネルを設ける場合に、固定パネル 2 に第 1 延長パネル 3 a を設け、その第 1 延長パネル 3 a にさらに第 2 延長パネル 3 b を設けたが、固定パネル 2 に、第 1 延長パネル 3 a と第 2 延長パネル 3 b とをスライド可能に設けてもよい。この場合、第 1 延長パネル 3 a と第 2 延長パネル 3 b との断面を同一形状とし、第 1 延長パネル 3 を上記と同様にして固定パネルのレール 8 に嵌合させる。そして、第 2 延長パネル 3 b の摺動部 1 4 の 2 本の脚 1 2 a で、固定パネル 2 の第 2 レール 1 0 のクランク部分を挟み込むことにより、第 2 延長パネル 3 b を固定パネル 2 前面に沿ってスライド可能とする。第 1 延長パネル 3 と第 2 延長パネル 3 b とは、固定パネル 2 に対して内外にずれているので、スライドさせてもぶつからない。

#### 【 0 0 3 9 】

また、上記実施形態では、延長パネル 3 及びカバーパネル 4 を横方向にスライドさせたが、壁開口 5 の形状に合わせて上下方向にスライド可能としてもよい。また、本取付パネルは上下対称なので、上下反転させて使用することもでき、方向が限定されない。

#### 【 0 0 4 0 】

また、カバーパネル 4 と延長パネル 3 とを兼用させてもよい。例えば、延長パネル 3 を伸縮可能とし、ダクト a 取付時には、縮ませてダクト取付口 1 1 を覆わないようにし、ダクト取付不要時には、伸張させてダクト取付口 1 1 を覆うようにすればよい。延長パネル 3 を伸縮可能とする態様としては、延長パネル 3 を蛇腹状に形成すればよいが、これに限定されるものではない。

#### 【図面の簡単な説明】

#### 【 0 0 4 1 】

【図 1】本発明の取付パネルのカバー開放状態を示す ( a ) 正面図、( b ) A - A 断面図

【図 2】本発明の取付パネルのカバー閉成状態を示す ( a ) 正面図、( b ) B - B 断面図

【図 3】本発明の取付パネルの側面図

【図 4】同じく固定パネルの ( a ) C - C 断面図、( b ) 正面図、( c ) D - D 断面図、( d ) 側面図

【図 5】同じく第 1 延長パネルの ( a ) E - E 断面図、( b ) 正面図、( c ) F - F 断面図、( d ) 側面図

【図 6】同じく第 2 延長パネルの ( a ) G - G 断面図、( b ) 正面図、( c ) H - H 断面図、( d ) 側面図

【図 7】同じくカバーパネルの ( a ) I - I 断面図、( b ) 正面図、( c ) J - J 断面図、( d ) 側面図

【図 8】空気調和機のダクトの取付状態を示す図

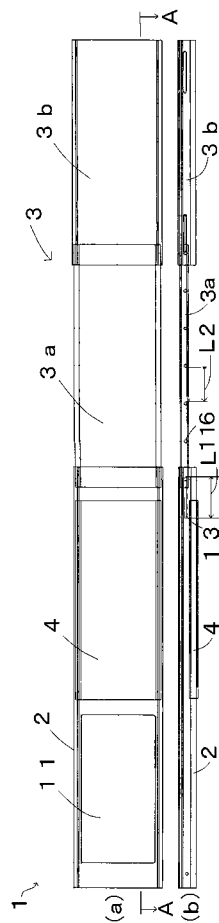
#### 【符号の説明】

#### 【 0 0 4 2 】

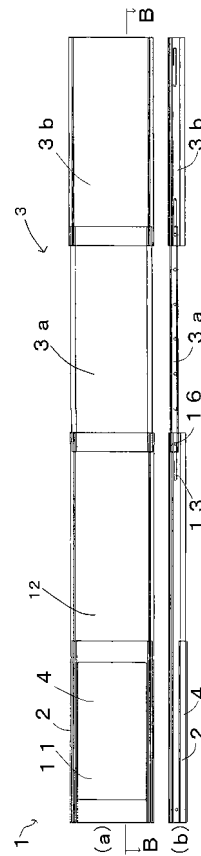
- 1 取付パネル
- 2 固定パネル
- 3 延長パネル
- 4 カバーパネル
- 5 壁開口
- 6 固定部材
- 7 固定パネル背板

- 8 固定部
- 9 第1レール
- 10 第2レール
- 11 ダクト取付口
- 12 延長パネル収容部
- 13 第1孔
- 14 摺動部
- 15 延長パネル背板
- 16 第2孔
- 17 摺動部
- 18 延長パネル背板

【図1】

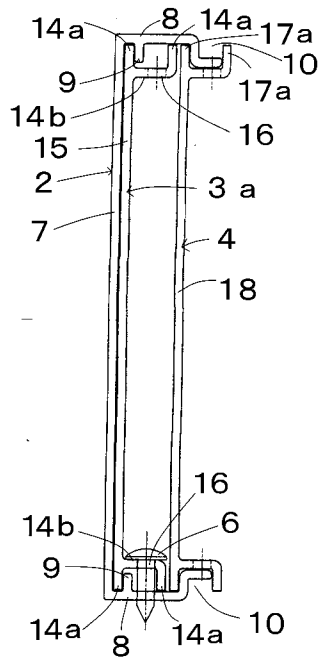


【図2】

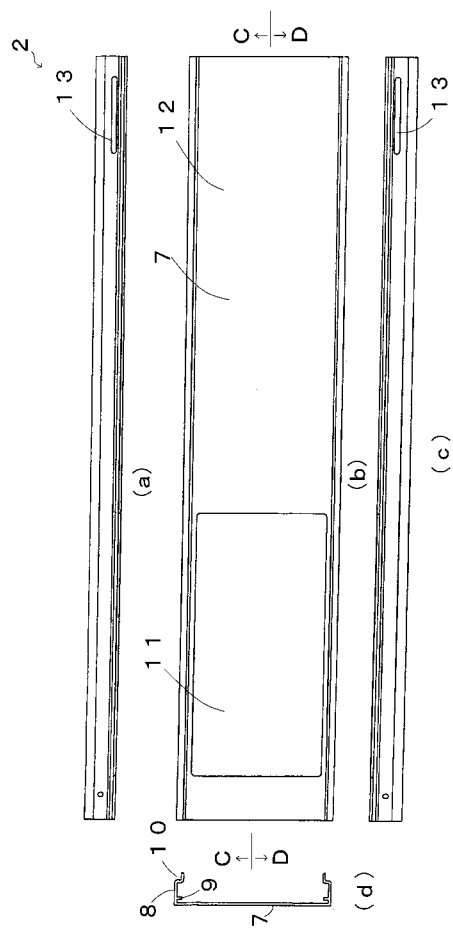




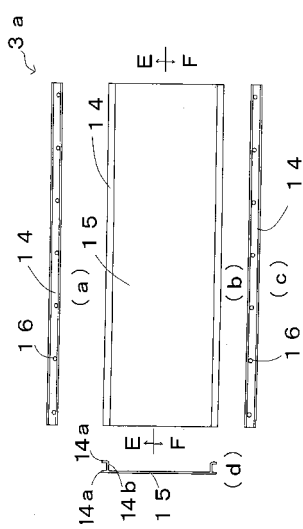
【図 3】



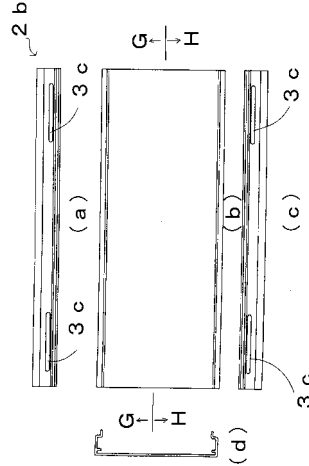
【図 4】



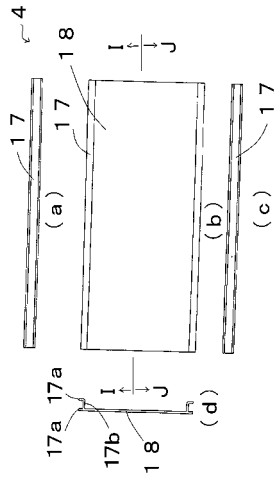
【図 5】



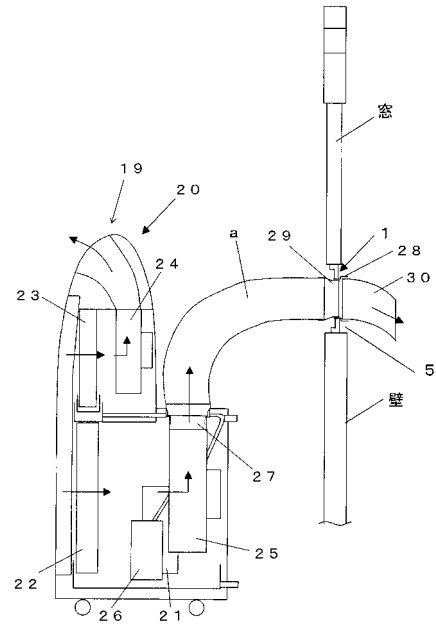
【図 6】



【図 7】



【図 8】



---

フロントページの続き

(56)参考文献 特開平04-225736(JP,A)  
実開平01-130495(JP,U)  
特開平05-010548(JP,A)  
特開平10-213345(JP,A)  
実開昭61-124814(JP,U)  
実開平02-034889(JP,U)  
実開昭54-178932(JP,U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)  
F24F 13/02  
F16M 13/02